

何故、人は失敗するか

目的に正面から取り組んで、あなたが最善を尽くしつつあるとき、失敗しても、それは恥ではないのである。

われわれの懐いだいている理想は、我が生涯に達成し得る事業の絶好の尺度となり得るものなのである。それはその人の生涯の構図を定める青写真となるものである。

人間が墮落するのは、あまりに低空飛行的な低い理想を持っているからである。リンカーンは生涯の理想を高き処にもった。彼は偉大なる生涯の理想を描いて、大建築家が自己の描いて設計図に従って高層建築を築きあげていくように、その高き理想に従って生涯を築いていったのであった。

巨大なる高層建築が建てられるとき、それを構築するための材料となる”石材”や”鉄材”の一片一片は、それを如何に何処に用いるかが、建築家の設計図の中に、どんな細目に至るまでも注意深く考慮されて描かれているのである。そうでなければ、その建築物も安全でもないし、美観を保つこともできないのである。

およそ大成功者といわれる人々は、偉大なる生涯の青写真をもっており、その青写真に従って自己の生涯を築いて往つたのである。

およそ人間性に存する最も奇怪なる逆説（パラドックス）は、男女とも、見たところ”成功”をめぐって自己の全力を尽くしているのに、しかも彼らはその”成功”を推し進めると考えられる事柄を為し、語り、考えつつあるのに、かえってあべこべに成功から遠ざかって行きつつあることである。彼らは終始、自己の

努力目的を、何らかの愚行や、弱さや、無分別によつて相殺して行きつつあるのである。彼は常に自分を他の人から誤解させるようなことを喋り、人から信用を失うような愚行を知らず識らず行うのである。彼らは見たところ嘗々基礎工事を固めつつあるかのようでありながら、基礎工事を掘り返しているのである。

多くの人々は古代トロイの勇者のように目指す栄冠を勝ち得ようとして嘗々と働くのである。そして我こそはの自負心でふくれあがりながら、何をするかと思うと、ある愚かなる弱点によつて、年を重ねて築き上げてきた栄光の建築物の足場をその土台のところから、突き崩して倒してしまふのである。この種の人々の生涯は、常に”登攀する”かと思つと、”倒れる”の繰り返し連続であつて、それだから、どの目標にも到達しないのであるし、何かの価値ある仕事をも成し遂げることは出来ないのである。常に登ることは登るんだがそれを相殺する何らかの行いをする。それが運命の最大の躓き石となるのである。

数百千の人々が、自己が得ようとして努力しつつあるその成功そのものに背を向けて、目標から遠ざかるような行動を一生涯しているのを見ることは全く悲劇だというほかはないのである。どうして彼らが幸運から自ら遠ざかりつつあるかというと、すぐカツとなる性格を自分でコントロールすることが出来なかつたり、何らかの、ほんのわずかな無分別の行為をしたり、その他自ら注意すれば矯正することのできるはずの弱点や欠点を矯正しておかなかつたからなのである。

私の知っている”論説書き”の男は、

勇健な迫力ある文章を書いたが、彼は今から六十年前のこと、ちょうど彼が二十歳の時だが、両手にあまるほどのいろいの良き位置を得ていながら、その椅子を次々と失っていったのだった。それは、彼のちよつとした無分別、すぐカツとなる短気な性格、ほんの瑣細なことで傷つきやすい易感性の神経質がその位置からの墮落の原因であった。彼ほど努力して激しく働くものはほかにはなかった。そして彼が起ち上がると、また叩き倒された。そのたびごとに彼は底辺から起ち上がった。そして計画をやり直し、再び新しい足場を作って登るのだけれども、それはただ、あの『イソップ物語』にある井戸の中の蛙のように、井戸の中から這い出ようとして飛び上がるたびに滑り落ちて、上がる事が出来ないのであった。

さて、皆さん、この人がもし彼の青年時代に自分の性格の欠陥の目録を作り、その二つか三つかの弱点を矯正して正しい方向に強化することをしておいたならば、今ごろ彼は文筆界の耆宿として、崇拜される一個の巨人として立っていただろうと思われるのである。

世間には数百千の人々が会社のただの事務員として、またはただ普通のサラリーマンとして働いている人々があるのであるが、もしこれらの人々が、その性格に何らかの不幸な弱点や生来の何らかの欠点や風変わりな癖があるのに気がついて、青年時代に多少の自己訓練、自己分析をしてそれを矯正しておくことができたらば、彼は立派な企業家や経営者となって活躍できたであろうと思われる。

世間には、もしこのような小さな欠点のうちの一つがなかったら、彼が今雇われている雇主よりも、もっと有能なと思われる人が、低い従属的な地位に甘んじていることがあるのは決して珍しくはない

のである。

こつという訳で、その人は、自分の上の地位に坐っている人よりも、自分の方が能力があるのにと思いながらも、生涯をあまりパツとしない椅子に坐つて、卑屈な生活をたどたと歩いていくより仕方ないのである。

こんな人々を見ると、私は、素晴らしい出来栄の陶器でありながら一点のキズがあつたり、小さなヒビが入っているために、全然その価値を失つてしまっている銘品を思い起こすのである。

またほとんど無限の価値があるほどの美術品でありながら、何かかすかな欠点があるために価値を失っている作品が随分たくさんあるのである。それはちょうど、ほんのちよつとの瑾きんしかなければ無限の価値があるはずのダイヤモンドのようなものである。

成功者と謳われるはずの才能を持ちながら、その人が暗い、卑しい、人から軽蔑されるような気質をもつていたり、行儀作法をわきまえないために、今は失敗者の墓に眠っている人たちもたくさんあるのである。このような人は近くにいる人々に絶えず不平や癩癩玉を撒きちらして、自分の周囲の雰囲気を毒するのである。こんな人は、彼が経営者であるならば、自分自身の努力の価値を無効にってしまうだけでなく、彼のために働いてくれている全ての人々の有益なる力を発揮せしめ得ず、彼らももっている新規の発案力や、助言的能力や、暗示的アイディアを麻痺させてしまうことになるのである。

またこんな人々もある。狐疑逡巡、恐怖、勇気の欠乏、自信の欠如等が原因になって、自分自身から成功を遠ざけて行く人々である。

以上の如き、その人々の思考上の習慣

は成功の要素となる条件を崩してしまふのである。こんな想念の習慣があるときにはけつして自分に”成功”を引き寄せることができないばかりか、自分の心の中に、想像による”敵”を群がり作って、心が平和を失ってしまい、強固なる決意を持って目的に向かつて邁進することが出来なくなるのである。こんな人たちは、成功の想念、富裕の想念を持続することができないで、常に失敗フォビア、疑惑フォビア、貧乏フォビアに悩まされているのである。

未来の失敗を心に予想する者は、将来の発展を自ら阻礙するものである。何故なら、心に予想する心象は将来の現れてくる事象のパターン（型）になるものだからである。

人生における失敗の大部分は、度胸と事業のセンスの欠乏から来るのである。

強固なる意志を持たず、人の感情や思惑に左右せられやすい性格を持っていて、断固として目的に邁進する決意と、その努力を持続するスタミナを持たず、拒否すべき時に毅然として”否”ということができず、人に勧められて成功の希望もなき事業に投資しながら、かつての旧友を傷つけたくない人情にからまれて、怪しげな事業報告書にサインをするような若者を実業界に送り出すのはまことに不幸なことであるのである。

かつてある農業組合の集会で、傾斜地の問題が取り上げられて、いろいろの果実や野菜等について、どれが一番適地培養として好結果が得られるかについて議論が戦わされたことがあった。そのとき頑固な頭の高農のひとりだけが、その意見を聴取するために出席が求められた。彼はそのとき、”地面の傾斜という問題は、人間の性格の傾斜ほどには、そんなに収穫に關係するものではありません”と答え

たということである。

地面の傾斜はそれほど問題にはならないが、人間の性向即ち性格の傾斜は、企業のあらゆる方面においても、成功か、平凡並みか、失敗かの区別を截然と画することになるのである。ニューイングランドの気候不順の岩また岩の峨々たる石地からでも、知性のすぐれた奮闘努力型の農業者は成功と名声を勝ち得るのであるが、別の性向をもつ農業者は最も肥沃の土地で、気候も最適の地でありながら失敗するのである。

ともかく私は考えることがあるが、もし、今日われわれの心を悩まし、われわれから力を奪い去るいろいろのものから脱却することができ、もつと周囲の人間及び環境条件に対して調和ある関係に入ることができれば、われわれは為し甲斐のある良い仕事ができるにちがいないのである。しかしながら、周囲と調和などと仮にいうけれども、”調和”というものは我々自身の心が支配する力の中にあるのであつて、決してチャンスやわれわれの外部の力によるものではないのである。われわれ自身が調和をつくり、また不調和をつくり出すのである。強い性格をもつた成功型の人間は環境の奴隷などには決してならないのである。彼は自己にとつて望ましき条件状態を創り出すのである。彼自身もつて生まれた能力とスタミナとにより、周囲の事物を自己の希望するとおりの姿につくり変えてしまふのである。しかしながら性格の弱い人間は外界の影響力の奴隷になるのである。真に自己の力を自覚するところの人は、望ましい条件状態が出てきたらその際に出勤しようなどと甘いことを考えて、好機の来るのを待つようなことをしないのである。彼自身が内蔵する天賦の力がレーザー光線を発射するかのようにな、困難

の障壁を掘鑿しつつ進む。そして波に漂う船のように環境条件の奴隷になることはないのである。

生きている遊泳力の強い魚は大滝小滝や激流急流を溯泳するけれども、死魚にはその力はなく、流れのままに漂流するのであって、そこに”生命”あるものと”生命”なきものとの非常な相違が見られるのである。それと同じような相違が、みずからの想像力を内より發揮する強者と、みずから、イニシアチブをとることのできない弱者との間には見られるのである。

われわれは、自分に向かって来る”偶然のもの”を、そのまま抵抗せずに受け取る必要はないのである。自分に向かってやって来るいろいろの打撃や、あらゆる種類の批難悪評や、敵意反感その他自分の弱い努力を減弱させてしまうこれらのものを心の中に受け容れるのは弱者のすることである。しかし力を周囲に放射する偉大な強者の人格は、そんなものを撥ね返して、障害物はみずから逃げ去ってしまうのである。

私はあるときウエスタン地方のある町をトルネード旋風が一過した直後、旅行したことがある。そこには弱い樹木や脆弱な建物は皆倒されて、巨大な大木と、基礎工事のしつかりした最も豪壮な建物だけが建っているのであった。吹き荒れる環境の中では、ただ最も優強なるものだけが残されるのである。幼弱な苗木や若木や、年古りて幹の中が腐っているような老樹や、安物の材料で建てた繊弱な一時的な建物は皆トルネード旋風に抗することができないで一掃的に倒れてしまっているのであった。

これらの光景は、経済界に大恐慌が起こったとき、どんな影響がどんな人間に打撃を与えるかということに対する現実

的証拠を提供しているのである。ただ優強な適者のみが生き残るのである。資本の小さい、精神的スタミナの乏しい、性格の強固でない貧弱な中小企業家や、微賤から志を立てて、みずからの努力によって現在の地位を戦いとった者ではなく、コネや富裕な親爺などの影響で、現在の地位に押し上げられたような人たちは皆ノックダウンさせられ、ただ、巨大な剛毅なスタミナと勇気ある奮闘力を備えている者のみが、永久にその位置に生き残るのである。

経済界の景気の良い時節で、誰も彼も儲かるようなときには、普通一般の能力しかないものでも、事業を發展させていくことができるのである。しかし不況時代や大恐慌の時代には巨人のみが生き残るのである。

数千人の人々が常に職業を変えて、半ダース以上もつまらない仕事を転々として変わったために、失敗の生涯を送っているのであるが、もしこれらの人々が、その全努力を傾注して一つの仕事に精力を集中していたならば、その方面の仕事に大成功を収め得ただろうと思われるのである。

またこんな種類の人もある。一つの職業に努力を集中しながら、不要の瑣末なことに引つかかっていたために重要な仕事を完遂することができないで、大成功をし遂げ得なかつたというような人々である。

またこんな種類の人もある、常に無数に出てくる小さな雑事を人に委すことをしないでいるために、自分の有っている素晴らしい能力を發揮する機会を失ってしまっているような人々である。このよう人々は自分が偉大なる成功を遂げるためには、何が重要な仕事であるか、どんな瑣細な何を人に委すべきかを知らない

でいるように見えるのである。そのため彼の時間とスタミナとを雑務に浪費してしまうことになるのである。そして彼が能力を十分發揮し得る重要問題をば、ほとんど手懸けることができないのである。

あなたの人生目的をワキ道へ外ら^ッししまい、あなたの生涯の履歴をつまらな^いもにしてしまわないためには、こまごました雑事にああなたの時間を盗む”時間泥棒”から自分を守り、あなたの”創造的才能”と”創造のエネルギー”とを大切に使うことが賢明であるのである。

もしあなたが、仕事の大局をつかま^{ない}で細目ばかりに没頭してしまつたならば、あらゆる方面に連関をもつあなたの事業の全体観を明瞭かつ精確に把握することができないので、あなたの事業は失敗の危機に立たされる危険があるのである。

全軍の指揮官である将軍が、はげしい戦闘のさ中に、兵卒とともに銃を持って戦うなどということは決してないことなのである。もし将軍がそんなことをするならば、銃砲火の轟音で指揮官としての心が茫洋と麻痺してしまい、硝烟濛々として視界は曇^つてしまつて、敵軍の行動をはつきりと把握することができず、自分のどの部隊にどういう兵器を補充すべきか、敵前にある自分のどの部隊の兵員の希薄を、どこからどう補強すべきかについての正しき判断を下すことが出来なくなるのである。全軍の指揮者たるものは、もし可能であるならば、戦場を離れて、全軍の行動をいちいち精確に知ることができる高地に司令部を置いて、情勢を適確につかんで処置し得るようにしなければならぬのである。

軍隊の指揮者も、企業^の指揮者も同じことである。あなたが大実業家として、

企業全体の総指揮者となろうとするならば、各部の仕事全般をハツキリ把握し、何処で何が行われているかを適確に知ることが出来るような位置に自分を置かなければならないのである。あなたが事業のある細部に没頭しているときには、事業ぜんたいが危機に面するようなことが起こるかもしれない。そんなときに、もしあなたがその事業ぜんたいがどんな状況下にあるかを適確に知っているならば、適切な処置がすぐとれることになる、事業の破綻を未然に防ぐことができるのである。多くの人たちは事業を率いる将軍であると同時に、一兵卒をも兼ねようとするために失敗するのである。

細目に心を奪われて、事務員が為すべきはずの小さな些末^{さまつ}な問題に事業の首脳が関わり合っているならば、せつかくの企業成績を台無しにしてしまつて、いたずらに墓碑銘を書か^しめることになりかねない。何故なら、事業の航路に障礙を設けて事業の発展を阻害する”難破船の漂材”から、あなたは自由になることができないために、せつかく、素晴らしい能力の持ち主でありながら何ら価値ある仕事をなしえない状態に置かれるからである。

せつかく、経営者として事業管理の能力を持つている人でありながら、自分のアイデアを人を信じ委せて遂行する^{こと}ができないために、大^{しん}事業を計画し進^{しん}抄^{しやく}させることができずに行き詰ま^つてしまつ人も大勢あるのは惜しいことである。

社長み^{した}ずから認めた親書を顧客に送ることは、大抵の場合、恐らく礼節の重味があつて、それだけ製品の販売量が増加し、商売が盛んになるということは疑いないことである。一方においてその社長の片腕として聡明なブレン・トラストが

いてくれて、社の運営を計画して万般の方面に進出するプログラムを作成してくれ、社員たちの能力を鑑別して各職員を適当に訓練し、社長の持つアイデアを具体化するように彼らをそれぞれ天分の位置に配置してくれるならば、社運を隆昌にし商勢を盛んにならしめることが期待できるのである。

こうして社の全員の能力に従って、社長の仕事をそれぞれ分担して協力してくれることになれば、社長の能力が、社員を通して無限に拡大する訳であって、社長みずから社の仕事の細目をひとりで手掛けるよりも、幾千倍もの仕事を成し遂げることができるのである。

多くの人は、迅速にかつ慧敏に、事物の判断に結論づける能力がないために失敗するのである。このような人は熟慮に熟慮を重ね、右顧左眄し、あちらを叩き、こちらを叩き、泰山鳴動して一足の兎すら獲ないうちに機会は逃げてしまつて、危機は容赦なく追つてきて自分自身を滅ぼしてしまつことになるのである。

私の考えでは、今日企業に失敗している大勢の人々の中で、最も多いのは、その失敗の原因が、彼ら自身の臆病さにあるのであって、あえて決断断行する勇氣が欠如していることに原因があるのである。

そして、これが他の原因よりもよほど多いのである。

臆病な人間は常に好機会を見逃してしまつのである。これに反して勇敢な人間は常に機会を捕らえるのである。臆病は自信力を封殺してしまつのである。"心"の家族のメンバーの中で、一番失敗する家族は"臆病"という名のついた家族である。"臆病"は常に、"こう"なのである。"もしそれを断行するならば問題が起こるから、そこへ行くな、そんなことをす

るな"と。これに反して"勇氣"はこういうのである、「来たりてこれを為せ、何を前には恐れているのか。勇敢に前進せよ」と。しかし"臆病"は常に後方に退いて、何事も、事後、事後となり、アトでじたばたするのである。"臆病"という令嬢は、自分が掴むことを躊躇して逃がしてしまつた機会を、"勇氣"という逞しい勇士がそれを捕らえているのを指をくわえて見ながら、惜しいことをしたと歎くのである。

失敗者の墓石に刻まれる碑文

彼は自己の蘊蓄を充分消化することに失敗した。

取越苦勞が彼の才能を封殺した

彼は予備能力を持たなかつた

彼にはスタミナが欠けていた

彼は決意断行の能力がなかつた

彼は風にそよぐ葦のようにあまりにも感受性がデリケートであつた

彼は"ノー"というべき時に、"ノー"と言えなかつた

彼はもう一息と言つところで挫折した

彼は、自分の坐るべき本当の位置を見出し得なかつた

彼は自分の偏見に執着しすぎた

彼の最初に少しく成功したことが仇あだとなつた

彼は高慢であつて他の助言を容れなかつた

彼は自分の弱点を防衛することをしなかつた

彼は先見の明を欠いて、ただ、場当たり何事もした

彼は”力”に点火するライターを持っていなかった。

彼は自分の仕事に惚れていなかった

彼は利己主義という縄で自分の首を絞めた

訳注・この反対の性格を有っていたら成功者となる訳である